

会議名	令和4年度第1回西尾市子ども読書推進委員会
日時	令和4年11月2日(水)10:00~11:15
場所	西尾市立図書館 会議室
出席者 【敬称略】	委員 安井克彦(委員長)、伊與田明美、森田真弓、杉浦真由美、杉田久美子 鈴木貴之、杉浦智芳、今本政勝、齋藤武雄(副委員長)、齋藤俊幸 事務局 生田美恵、石崎明美
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会次第・第4次子ども読書活動推進計画(案)・計画作成スケジュール ・第3次施策達成度進捗状況表(令和3年度見込み) ・第3次施策達成度進捗状況表(第4次計画に向けての見直し) ・第4次計画において追加したい項目 ・子どもの読書活動の指針に関する法律 ・西尾市子ども読書推進委員会規則 ・西尾市子ども読書推進委員会名簿

委員会の中で出されたことは以下のとおり。

1 あいさつ

- ・齋藤部長あいさつ
- ・各委員自己紹介
- ・委員長、副委員長選出

2 議題

(1) 第4次西尾市子ども読書活動推進計画の策定について

委員長 第4次西尾市子ども読書活動推進計画の策定について、事務局から説明をお願いしたい。

事務局 平成29年10月から始まった、第3次西尾市子ども読書活動推進計画の期間が、令和5年3月で終了することに伴い、第4次の計画案を作成。第4次の計画は、第3次をベースに変更点を加味し、新規項目を追加した内容になっている。

計画案3ページ、「2.西尾市が目指す子どもの読書活動」「3.計画の基本方針」「4.計画の対象」に変更はなし。「5.計画の期間」は、令和5年4月から「おおむね5年間」としている。4ページから21ページまでは、基本方針の1から4に添って、施策について〔第3次計画の成果と課題〕を検証し、〔第4次計画の施策の方向性〕を示している。

第3次計画の達成度の確認では、基本方針1から4までの最終目標と見込みを比較すると、多くの項目で目標値が達成された。また、各課から提出された「第4次計画において追加したい項目」の調査では、4つの項目が挙げられたため、第4次の計画の中で新規項目として追加している。同じく、各課から提出された「第4次に向けての見直し」の調査では、各課の取り組みが達成されたため、多くの項目で、「見直しの必要なし」と回答された。

次に、具体的な見直し箇所と新規で追加する項目について、5ページ、基本方針1「家庭・地域における子どもの読書活動の推進」として、(1)読書通帳を推進する、(2)家読に関する行事を開催する、(3)幼児の健康診査の会場で配布している、年齢に応じた啓発パンフレットの内容の見直し、以上3つの具体策を追加した。

次に、基本方針2「学校等における子どもの読書活動の推進と学校図書館の充実」の変更点として、計画案8ページ、下から4行目「また、外国にルーツを持つ子どもの人口は、0~4歳564人、5~9歳613人、10~14歳489人、15~19歳480人」とあり、外国の子どもの人数は、少なくない。そのため、第4次の方向性として、母語が日本語でない児童生徒の読書活動を推進するため、外国語の絵本・児童書の整備を重点項目にした。

その他、削除した項目として、計画案10ページ下から8行目、3.学校図書館の図書資料・施設・

設備の整備と充実では、第3次の計画では、「空調設備を全校の図書館に設置する」の項目に関して、全ての学校で設備が整ったため、削除した。

次に、基本方針3「図書館における子どもの読書活動の推進と図書館の充実」について、新規項目として3つの具体策を追加した。計画案14ページ、(1)多言語版利用案内等の作成(重点項目)。2つ目は、16ページの家庭・地域に対する子どもの読書活動の推進と啓発として、(1)中高生向け電子書籍を充実する、令和3年1月から「にしお電子図書館」を開始したことにより、読書離れが進む中高生の利用増加を目的とし、重点項目とした。3つ目は、18ページ、学校との連携による総合的な学習・調べ学習の支援として、(1)長期読物セットの利用を推進する(重点項目)を新規項目とした。

次に、基本方針4「子どもの読書活動を推進するための理解・関心の普及とネットワーク化」の変更点や見直し箇所について。第3次計画では、「子どもの読書活動に関するアンケートを実施する」が未実施のため、文言を変更し、次回第5次計画策定前に実施する内容に変更した。

以上が、第4次計画での新規項目と第3次計画からの大きな変更点。

委員 「地域で開催されるイベントで子ども読書活動を推進する」について、ふれあいセンターのイベントで図書館職員や図書館ボランティアが赴いてのおはなし会や、ふれあいセンターの講座の中で紹介する本の選書などで、図書館の協力を得られれば、引き続き計画に載せることは可能。

委員 「学校司書を配置する」の最終目標が55%、について、1校に1人が理想だと思う。

委員 「達成度」という表記がこの場合当てはまらない。このままの人数を「継続」という表現も違うと感じる。

事務局 学校教育課の担当者と相談しながら考えたい。

委員 年代別の利用状況はどうか。読書通帳の導入で子どもの利用が増えたか？

事務局 年代別の利用は、多い順に、7～9歳、40代、6歳以下、10～12歳、30代と続いていて、読書通帳の効果といえる。また、貸出カードを作成する子どもも増加した。コロナ禍の中、他図書館では利用が減少しているが、当図書館では明らかに子どもの利用が増えている。

委員 アンケートでは、電子書籍を読む子どもは少ないが、なぜ重点項目にしたのか。

事務局 クロス集計の結果では、小学校高学年から中学生はスマホで読む人が少し増えているため、ライトノベルなどを選書することで、少しずつでも増やしていきたい。

委員 本に親しむために、ふれあいセンターに漫画文庫を設置する予定なので、計画に載せてほしい。

(2) その他

委員長 議題(2)その他について、事務局から説明をお願いしたい。

事務局 今後のスケジュールについて、推進委員会は、本日が第1回目。12月6日に第2回目を行う予定。計画の修正は、本日の意見と、各課からの第3次の見直しと新規に追加したい項目について出てきた意見を元に計画を修正。1月に文教部会、定例教育委員会、社会教育審議会で議題を提出し、パブリックコメントを行う。2月にパブリックコメントで出た意見を反映して修正したものを書面で委員に確認いただき、3月に完成という段取りを組んでいる。

委員長により令和4年度第1回子ども読書推進委員会を閉会した。